

11月6日 蘇 陽 病 院 (電話83-1122)
11月13日 高田整形外科 (電話72-1007)
11月20日 坂本クリニック (電話72-0210)
11月27日 伴 病 院 (電話72-0029)

〔平成23年9月30日現在〕

男	8,625人(-8)
女	9,231人(-17)
計	17,856人(-25)
世帯	6,767戸(-2)

※()は前月比
※最高齢は106歳〔女性1人〕
※1月1日～9月30日の出生届数
77人(うち9月は8人)
※1月1日～9月30日の死亡届数
214人(うち9月は29人)

「忘れられない風景」のお便りを募集しています。

～NHKBS「にっぽん縦断 こころ旅」～

NHK—BSの番組「につぼん縦断 こころ旅」があなたの忘れられない風景にまつわる手紙を募集しています。

この番組は、視聴者から寄せられた「忘れられない風景」についてのお便りをもとに、旅人である俳優 火野正平さんが日本列島を自転車で縦断します。11月に熊本を通過予定です。

旅人にふるさと山都町を通ってもらうため、山都町の忘れられない風景、思い出の風景、さらに、日本中に伝えたい風景や普段の何気ない風景など、あなたのこころの風景をお手紙にして送ってください。

たくさんのご応募お待ちしております。

季節のうた
 やまなみの会
 木々渡る 風音どこか 秋めきて
 滝幅を 広げて落つる 水しぶき
 誘はるゝ 祭太鼓の 響きあり
 暑さをも 被災地思い 我慢して 病夫もうちわで
 乗り切るといふ 山下 弘子
 鮎の瀬の 橋のたもと どの茶店にて 饅頭類張る
 ひとりじめして 古閑比奈子
 御先祖の 一人一人を偲びつつ 心なごみて
 お墓の手入れ 荒木由紀子
 通潤句会
 滝音や 遠くなりゆく 友のこゑ
 石橋を 渡りくる水 稲の花
 清和短歌会
 牛の居ぬ 農家となりて 牧草も 不要となれば 雑草
 しげる
 ガレキ中 文化の伝統たやさじと 祭りに意気込む
 氏子の心 少し遅れし 吾れを見て 素早く 席をゆずる
 会場に 大塚 叢司
 若人 原田由紀子
 馬見原 醉山会
 台風の 気配か 森の そよそよと 大西久美子
 曼珠紗華 咲いて 此岸の 川辺かな 岩永 博
 犬の鼻 触れては げけし 鳳仙花 渡辺 勝子

書道

和光教室書道部の片山久男さん（須原）作

十月看書雪替螢

墨信

編集後記

今年で最後となってしまった馬見原小・菅尾小・大野小の運動会。元気な児童に感心したのはもちろんですが、地域の方々の盛り上げようにも感心。馬見原小にはくまモン、菅尾小には菅尾レンジャーが現れ、そして大野小には、寅さんに黄門さまにピンクレディーその他もろもろ・・・。児童の保護者や自治振興区、体協など地域の方々なくしてこの運動会はないことを強く感じました。4月にできる「蘇陽南小学校」も、こんな地域の方々に支えられて、間違いなく良い学校になると確信しました。(F)



現地学習に参加する、学校の教職員。

教育啓発の取り組み

わたしたちの人権



現地学習会

部落問題の歴史や
現実に正しく深く学
び、学校での同和教
育を推進していくた
めに、山都町では全
学校の教職員が、主
として夏休み期間中
に、現地学習会を開
催しています。

現地学習会では、同和対策事業で整備した施設（道路や水路・住宅など）や、同和教育を進める中で生まれた実践などに学んでいます。参加者は施設や実践が作られた背景・ねらい・効果などを現地で学び、各学校での取り組みに活かしています。

■「寝た子を起すな論」の問題点

「寝た子を起こすな論」とは、「同和教育・啓発を行って部落問題を教え込むから、かえって差別が残ってしまう。同和教育などしないほうがいい」という考え方です。

この考え方が机上の空論である第一の点は、歴史の事実に反していることです。1871年に解放令が出された後、明治政府は同和行政も同和教育も一切行いませんでした。まさに「寝た子を起こすな」式で問題が放置されたのです。では、部落問題が次第に解消していったのでしょうか。事実とはまったく逆で、むしろ差別の実態は厳しさを増したといわれています。

第二の点は、私たちの知識は学校教育や社会教育などの公教育によってのみ形成されているのではないという事実です。例えば携帯電話の使い方や私たちは学校で教わったから知っているのではありません。さまざまな媒体を通して、私たちの知識は形成されます。間違った認識を植え付けられないためにも、公教育で部落問題を正しく取り上げることが必要です。

さらに、「寝た子を起こすな論」の問題点は、部落の人びとが差別に対して抗議することや差別からの解放

を求めて市民に訴えることを否定することになっていく点です。結果的には「差別を受けても黙って耐え忍べ」「被差別部落があるから部落差別がある」という、間違った考え方に
もつながります。

人間が作った差別は、人間の取り組みによつてこそ解決されるものです。部落差別をはじめあらゆる差別のない町を作るために、みんなで力を合わせて差別解消への取り組みを展開してこそ、真の問題解決が図られるのではないのでしょうか。

山都町では、正しく学んでいたための教育啓発を今後も積極的に実施していきたいと考えています。

